

# 1

## 環境

### 生ごみを資源、産業化して町おこしを

#### 町の状況に合わない

##### 問

地球温暖化による気候変動で全世界で災害が起きています。二酸化炭素排出が大きな原因と言われています。

大木町では生ごみ分別し、ごみの処理経費を分別前より年間3千万円削減しました。家庭ごみの3〜4割は生ごみです。生ごみは燃やすのではなく、資源として活用すべきです。山形県長井市では、生

ごみは家で水切りし、回収バケツに入れます。生ごみで堆肥を作り、農協に卸しています。

生ごみ分別は住民の合意と自治体、自治組織の協力なしには実現できません。生ごみを堆肥にする法人を立ち上げ、町おこしをすることは町づくりになります。どう思われるか。

##### 答 平松町長

須恵町でも、昭和54年から昭和60年代まで大木町と同じように「地域循環型社会」の構築について取り組んでいました。ただ、家庭の生ごみを処理し堆肥化するというのは非常に難しく、須恵町の状況には合いませんでした。大木町の主要産業は農業ですが、須恵町は都市近郊型です。当時はまだ須恵町にも農地が多くありましたが、現在は小規模農家しか残っていません。そのような中で、仮に今、堆肥を作っても、供給過多で採算が取れず、町の財政を圧迫してしまいます。

生ごみを燃やさない方が環境に良いのは当然ですが、現在はダイオキシンの発生がほとんどない安全な処理施設となつていきますので、生ごみの資源化は考えていません。



答弁中の平松町長



児玉 求 議員

○「問」については、議員が提出した要約文のとおり掲載しており、編集は行っていません。

## 産業

### 資源の有効活用は

#### 販売は考えていない

##### 問

本町は、自然豊かな町で水資源も豊富です。今までも、雨不足による節水の呼びかけはありましたが、断水したことはないと思料しています。この大切な水資源を有効に活用できないでしょうか。

将来、財政的に厳しくなるのは目に見えています。町としてもスエノバの事業で今までにない視点を変えた事業を

進めています。成果が出るのは先の事だと認識しています。スエノバの事業の一連事業として取り入れ、水資源を有効活用した飲料水事業に乗り出すのも一つの方法だと思料します。

##### 答 平松町長

過去の<sup>かつ</sup>渇水の際、須恵町が断水をしなかつたのは長年かけて水資源の確保に努めてきた結果であつて、決して水が余つていたからではありません。現在も、福岡地区水道企業団からの受水もあり、安定して水を供給することができています。しかし余分な水というのはなく、何かあつた時のために確保しておかなくてはなりません。

また、工場を作つてまで行くには、経営的にも非常に厳しい事業だと思料します。

さまざまな状況を踏まえ、我々の貴重な命の水を利用し、販売することは現在考えていません。



猪谷 繁幸 議員

## 一/般/質/問

# ここが聞きたい!

○一般質問とは、議員が町長など執行機関に対し、町の行財政全般について疑問点をただし、報告や説明を求めることです。

# 2



町の貴重な水資源 (須恵ダム)



クリーンパークわかすぎ